

水の宮殿

ヒンディー語で「水の宮殿」という意味のジャルマハルはマン・サガール湖の中央に浮かぶ。ピンク色の壁が立ち並ぶ別名ピンク・シティとしても有名なジャイプールの中でも静かに不思議な魅力を放っている。水上から見えているのはほんの一部。実際は5階建てそのほとんどは水の中である。

ジャルマハルの歴史

18世紀にジャイプールの王サワーイ プラタップ シンによって建てられたジャルマハルは宮殿という名前がついているが宮殿として使われたことはなく、王族の夏の保養地として王族がカモ狩りする時に使用していたという。

ジャルマハルは何世代にも渡って改築され、屋上にある庭園は後のマハラジャ（王様）によって作られた。そして現在の姿に至る。

政府によって保護されてるジャルマハルは入場が制限されていて基本的には中に入ることはできない。ただし事前に宮殿の観光当局に連絡して予約をすれば中に入れることもあるらしいので、どうしても中を見たい方は問い合わせをしよう。中に入れなくてもジャルマハルは時間によって姿を変え、混沌としているジャイプールの中で静かに佇みとても美しい。

旅行サイトによる

